

イスラエル・パレスティナ少年柔道招へい事業に参加して

体育学部・武道学科 4年 奥谷 祐介

まず初めに、この活動を企画・実施を行われた、山下先生をはじめとするNPO法人柔道教育ソリダリティーの皆様、活動に支援をいただいた皆様、ボランティアの皆様に感謝したいと思います。多くの方々のご協力のおかげで、両国の子供たちにとっても、私たちにとっても良い経験ができたと思います。

現在でも様々な事情により、両国を招いての活動はとても難しい事であったと思います。しかしながら、「柔道・友情・平和」の理念のもと、賛同していただいたみなさまのおかげで無事に活動を終えることができたと思います。

活動の初めには両チームとも緊張感があり、互いに意識しあっていました。しかし、この活動を通して一緒に柔道や生活をする中で、お互いの雰囲気は少し和らいだように感じました。仲良くなるとまではいかなかったものの、お互いに今までとは違う考え方で接する事ができたのではないのでしょうか。笑顔で握手をする選手も見られ、互いに認め合う事ができたのではないかと感じました。

2週間という短い期間で共に生活をするという経験をした彼らにとって、不安はあったかもしれません。しかし、この活動を通して両チームの雰囲気は和らぎ、笑顔まで生まれました。複雑な事情を抱えた両国でも、“柔道”を通して少なからず「平和」に近づいたのではないかと感じました。このように、両チームに笑顔と平和をもたらした柔道はとても素晴らしいものだと改めて感じました。

両チームの選手にとって、この2週間で経験したこの活動は、とても大きな経験になったと思います。今回の経験を通して、彼ら自身が「友情・平和」について少しでも考えてくれたら良いと思います。そして将来、彼らの中から両国の平和を訴え、活動してくれるような人が出てきてくれることを望んでいます。

今回の活動にボランティアとして参加して、私にとっても素晴らしい経験をする事ができました。世界の平和について改めて知り、考えさせられることが多くありました。世界の平和に対して、大きな力で働きかけるといことはできませんが、“柔道”を通して少しでも平和に向けた活動ができるということを知りました。今後、どのような活動ができるかわかりませんが、学んできた柔道を通して世界の平和に貢献でたらよいと考えています。今回の活動で学んだ多くの事を、今後の生活に活かしていきたいと思います。

